29. β_2-マイクログロブリン測定キット (SD-8567) の基礎的・臨床的検討 ……久保　嘉彦他…1380
30. 血清微量物質の安定性の検討
——凍結融解のくりかえしによるプール血清の安定期間について—— ……宇佐美政栄　…1380
31. ヒトC末端およびN末端PTHのRadioimmunoassay ……福永　仁夫他…1381
32. 培養細胞における ^{67}Ga-citrate, ^{59}Fe-citrate および ^{125}I-transferrin の動態の比較 …村中　明他…1381

一　般　演　題

1. N-isopropyl I-123 p-iodoamphetamine (IMP) による脳梗塞のシンチグラフィー

北村　暢康　田中　寛　絵野　幸二
安井　清　古川　雅彦　児玉　光史
倉橋康二郎　加藤　博和　石田　哲哉
（島根医大・放）

脳梗塞10例にIMPによる脳シンチグラフィーおよびSPECTを施行し，X線CTと比較検討した．Planar像では，7例でperfusionの低下した部位を指摘できた．SPECTでは，梗塞巣は全例でperfusionの低下した部位として描出された．SPECTとX線CTを比較した場合，半数の症例で異常範囲がCTよりも大きく描出され，CTよりも小さく描出されたのは1例のみであった．また，2例では，CTの異常部位と血管支配の異なる領域にも，SPECTで異常が認められた．

2. SPECTを用いた ^{123}I-amphetamine (IMP) による脳血管障害の評価

河村　正　村瀬　研也　飯尾　篤
浜本　研　（愛媛大・放）
宮川　正男　（愛媛県立今治病院・放）

各種脳血管障害患者に ^{123}I-IMP 静注後SPECT像を得て，他の検査法と比較検討した．IMP-SPECT像は，X線CTで異常を認めた部位に一致して，全例で血流欠損ないし低下による変化を描出できた．X線CTで正常であったAcom動脈瘤術後例で異常像が得られたが，血管れん縮による血流減少を描画したものと考えられた．また，^{81m}Krによる SPECT像とほぼ同一分布像を示したが，高度のIC Stenosisに対しSTAMCA吻合術を行った症例において，^{81m}Kr法では頭蓋内血流分布を把握し難かったのに対して，IMP法では，治療および病期による血流分布の変動を描画し得た．^{123}I-IMPは，静注法で脳血管障害時の血流分布変動を描画し得て，臨床的に有用な検査法となる可能性を有すると考えられた．

3. ^{67}Ga-citrate の唾液腺への集積——照射の影響について——

須井　修　竹治　励　嶋津　秀樹
渡辺　紀昭　（徳島大・放）

^{67}Ga-citrate の唾液腺への集積程度を4段階にGrade分類し，放射線治療による影響を検討した（照射群：38例，対照群：53例）．

(1) 対照群との比較において，唾液腺への集積程度をスコア化することにより，有意差 ($p<0.001$) が認められた．

(2) 照射線量とGrade分類との比較では，明らかな差は認められなかった．

(3) 放射線治療後の経過時間とGrade分類との比較では，明らかな傾向は認められなかった．

(4) 唾液腺への集積に左右差の認められた症例では，ほとんどが片側照射例であり，最低800 radより左右差がみられ，最高7か月後まで左右差が認められた．

4. 唾液腺の腫瘍性病変における Ga-67 および Tc-99m-pertechnetate シンチグラフィー

曽根　照喜　大塚　信昭　福永　仁夫
森田　陸司　柳本　真一　友光　達志
村中　明　（川崎医大・核）

今回われわれは，病理組織学的に診断が確認し得た唾液腺腫瘍14例について，Ga-67-citrate (Ga) および Tc-99m-pertechnetate (Tc) シンチグラフィーとTcによる排泄機能検査を施行し，その有用性を検討した．Gaの強い集積は，14例のうち原発性および転移性の悪性腫

Presented by Medical*Online

瘍5例全例，および良性腫瘍9例中3例において認められた．悪性腫瘍では，分泌機能の良好な症例においてもGaの強い集積を認めたのに対し，良性腫瘍でGaの強い集積を認めた3例は，いずれも分泌機能が低下しており，そのため，Gaが唾液腺部に貯留したことが一因と思われる．以上の結果から，Gaシンチグラフィーに，Tcによる排泄機能検査を組み合わせる方法は，唾液腺腫瘍における良性，悪性の鑑別に有用な手段であることが示された．

5. 甲状腺疾患における ^{201}TlCl-functional image (washout rate)

山本　洋一　　吉田　祥二　　小川由紀子
浜田富三雄　　小川　恭弘　　前田　知穂
（高知医大・放）
赤木　直樹　　（同・放部）

甲状腺におけるTl-201の動的変化をearly imageとdelayed imageからwashout rateを求め，functional imageとして表示することによって甲状腺結節の質的診断を試みた．Functional imageの作成にはback ground subtraction法を用いた．対象は組織診断の得られた9例で，正常例でのwashout rateは65～75％で，ほぼ均一であった．慢性甲状腺炎では55～85％で，非常に不均一であった．濾胞腺腫では55～75％と正常よりやや低値であった．腺癌ではそれよりさらに低く，35～70％であった．シンチグラム上は同様の集積像を示す場合でも，良性，悪性の結節のwashout rateには若干の差がみられ，これによって，その質的診断が可能になるものと思われる．

6. 1秒率正常者のエアロゾル肺吸入シンチグラフィー

須井　修　　嶋津　秀樹　　竹治　励
渡辺　紀昭　　（徳島大・放）

(1) 1秒率正常者のエアロゾル肺吸入シンチグラム(39例)を検討し，以下の3つのtypeに分類した．

Type 1: homogeneous distribution without central airway deposit

Type 2: homogeneous distribution with central airway deposit

Type 3: inhomogeneous distribution

(2) type 1とtype 2との間では，$FEV_{1.0}$％，MMF，$\dot{V}_{50}$，$\dot{V}_{25}$，$\dot{V}_{50}/\dot{V}_{25}$に有意差は認められなかった．

(3) type 3はtype 1およびtype 2との間に$\dot{V}_{25}$でそれぞれ有意差を認めた($p<0.002$, $p<0.05$)．$\dot{V}_{50}/\dot{V}_{25}$では有意差はなかったが，type 3の3例中2例はかなりの高値を示した．

7. Sarcoidosisにおける ^{67}Ga シンチの臨床的意義

新屋　晴孝　　平木　祥夫　　森本　節夫
竹田　芳弘　　江添　　弘　　林　　英博
山本　博道　　白神　敏明　　山本　淑雄
清水　光春　　黒田　昌宏　　青野　　要
（岡山大・放）

未治療の肺サルコイドーシスの患者25例について，^{67}Gaシンチ，BAL中のリンパ球数，S-ACE値を対比させ，肺病変の活動度判定における^{67}Gaシンチの有用性について検討した．

(1) Gaの肺野集積群でBAL中のリンパ球数の比率の増加を高率に認めたが，リンパ球数の比率増加群でも，肺野に集積の見られないものもみられた．

(2) Gaの肺門集積群でも，BAL中のリンパ球数の比率の増加を高率に認めた．

(3) Gaの集積とS-ACE値の間には，あまり相関がみられなかった．

Ga集積群では，胞隔炎の存在が高率に示唆され，Gaシンチは，肺サルコイドーシスの活動度判定に有用であると思われた．

8. 部分的肺静脈還流異常の1例

沢田　章宏　　吉田　祥二　　森田荘二郎
森田　　賢　　前田　知穂　　（高知医大・放）
小原　秀一　　小谷　了一　　（同・放部）

本例は心雑音と胸部レ線像での異常陰影(大動脈弓から左第2弓にかけて)と心肥大がみられ，RI angioの2秒間隔連続イメージ像で左右シャントパターンがみられた．500 msec間隔での画像再表示により，異常還流静脈が描出され，PAGにより部分的肺静脈還流異常と確診された．

RI angioにおいて左右シャントパターンをとる場合，ASDのみでなく，uncommon caseではあるが，部分的肺静脈還流異常も考慮しておくべきであることと，短い間隔での画像再表示をすれば，異常還流静脈をより明瞭

Presented by Medical*Online